

## シベリヤへ落ちた流星

下 關 支 部 長

廣 津 藤 吉

一九〇八年七月三十日の早朝四萬噸（千百八十萬貫）にあまる鐵塊が大空より落下しその震音は1700キロに互る地域全體に感ぜられた。この巨大なる隕星は幸にしてシベリヤの荒野に落下したのであるが假にニューヨーク市上に落下したとすると市中のあらゆる摩天閣は粉碎され、あらゆる人畜はその生命を、たちどころに奪はれたことであらう。

勿論同様な飛道具がニューヨークやシカゴや或は其の他の大小の都市を襲撃しないこと云ふやうな確固たる理由はないのである。

丁度其時ロシアの農民達は八百キロの彼方の大空にすさまじい閃光を見そしてこの天來の訪問客が地上で炸裂し崩壊した物音を聞いたのである。

この記事は千九百二十八年六月三十日の「リテラリー・ダイゼスト」の既に報するところであつた。その時以來露國の科學者達はその隕星に関する研究を續けて來たのであるが、一方、露國理科大學教授レオニード・クリク氏及シベリヤ考古學協會の教授ビクター・シチン氏を指導者とする探險隊が遂に隕星落下の地點を決定し得るに至つたのである。シベリヤの荒野の難澁な旅から歸つたクリク教授は隕星の墜落によつて生じた地面の大破裂穴の寫眞及隕星落下によつて生じた恐るべき大變動の報告を齎した。更にニューヨークのアメリカン・ウィークリーに掲載された記事を読み續けるこ

「科學者及び創作者達は彗星と或は巨大な隕星とが地球にぶつつかつたときに、どんな結果が、もち上るだらうかと云ふことを想像しやうと試みたのであるが、結局クリク教授の歸つて來る迄は、科學は實際に起つた正確なる真相をつかむことが出来なかつたのである。

クリク教授は數年前からこの推定的な隕星に深く興味を感じてゐるのである。これより先一九二七年、最初の探險隊が隕星落下の地點と目さるべき地を決めかゝつたのであるが、不幸にして食料其他の必要品の缺乏と、

恐るべきシベリヤの嚴寒を避けるために、直にその地を引き上げねばならなかつた。

ところが昨年クリク教授はシチン教授や其他の助手と共に第二の探險隊を試みたのである。今モスコーに歸つたばかりのこの探險隊は、あの宇宙的大衝突によつてのこされた古痕を初めて肉眼で見た實話や今迄傳へられた記録が誇張も云ふよりも寧ろ眞實であるも云ふことを證明するに足る標本も寫眞をもたらし歸つたのである。

クリク氏やシチン氏の報告によるも

「隕星の集團の落下した丁度その地點の周圍約一千平方キロに亙る地面一帯は恰も世界最大の大砲によつて砲撃されたやうに、穿たれ、粉碎されてゐる。そして、この落下によつて生じた凹凸が互に相起伏してゐる有様は歐洲諸戰場中最も荒廢に歸した地にも匹敵され得るのである。」

この徹底的に荒廢した地上に探險隊は泥炭や新しい苔の薄く生えてゐるのを發見した……あたかも自然はシベリヤの苔原のあの征服するこの出来ない植物を以て古痕を掩ひかぶさうもでもしてゐるやうに……

落下の中心點に於て、或は中心點の周圍數百キロに亙つて隕星の落下した事實を間違ひなく示す證據が残つてゐるのである。假りに地球の表面に文明人の到達するにこの隕星落下の地點よりも更に困難なる場所が多くあるにしても、その何れの場所も、この地點以上に科學者の探險に對するより以上の價值はもつてはゐないのである。

「モスコーを去る約六千キロの地點にあるタイシエツトはシベリヤの草分の町であるが、そこでシベリヤ鐵道を乗り捨て、探險隊は地圖にのつてゐない五百キロもある藪地や叢林や泥炭の沼を進んで行つたのである。このところに最も遅れた粗放な文明の雛形も云ふべき、鬚を深くのばしたロシア農民の小部落がある。

この部落の彼方には尙、全くの荒野が三百キロも展開してゐる。ところが、突然にも探險隊は二十年前の、あの惨劇の形跡に出くはしたのである。即ち、木々は平たく地に倒れて黒燒けとなり、そして、黒焦けになつた鹿の骸骨や、漂されて白くなつた骨なきが、あちらにも、こちらにも散

らばつてゐるのである。かくて漸次荒涼を増して行く原野を五十キロ近くも更に進んだ探險隊は遂に隕星の大集團の落下したこの疑ひの餘地のない地點に遂に到達したのである。

以下更に讀み續けて、クリク教授やシチン教授の説明するところを示すに

「この地點は、恰も大きな湖水に投下された石によつて生ずるあの漣が瞬間的突然の寒氣によつて堅く凍りつきでもしたやうな有様を呈してゐるのである。この隕星の重量はロシアの科學者によると尠くとも四萬噸（千八百八十萬貫）に達するのである。そして恐らく二百或はそれ以上の個々の投射物は一時間二千五百キロ乃至三千キロの速度で落下したと推定され得るのである。

科學者の報告によるに、斯如落下の量が多量であつたために、丁度水中の波の如く堅い土が凹凸の起伏をなすに至つたのである。そして隕星によつて穿たれた中央の大穴には個々の隕星のかけがめり込んでゐるがその中央の大穴の周圍には今でも流れに似たこれらの凹凸の起伏を見るこゝが出来るのである。

この全體の有様は又、泥溜の中に煙筒の頂上から煉瓦でも落したまきにも生ずるやうな有様を擴大したやうなものである。

かたい土塊が四方に、しぶきのやうに散亂したに違ひない。そして慘害は單に堅い地中に出来た穴や波のある中心地帯の外にも及ぼされたのである。即ちこの中心地點を去る約十五キロ乃至二十五キロのあたりに科學者達は恰も巨大な松火にでも焼かれたやうに黒焦になつてゐる地方を發見したのである。おそらく、それは隕星落下によつて起つたのである。

隕星が地上に落つる直前に隕星の大集團は三四百キロに亙る空中を震駭さしたに違ひない。隕星の落ちる直前に地上にあるあらゆる熔鑛爐の熱よりも更に熱い極度に熱せられた巨大な氣泡が、隕星の落下する急速度によつて生ずる最高度の壓力の下に、疑もなく飛散したこゝであらう。そしてかく自熱化された氣流が恐らく隕星の落下した地點の周圍一體を黒焦けにしたのであらう。

焼け焦けてゐる地點の周圍の更に十五乃至三十キロ言葉を換へて言へば直徑約八九十キロの圓周に亙りて、隕星落下の地點から急速度で放射された空氣の波も亦、隕星落下の痕跡をこめてゐるのである。即ち嘗つては生きてゐた幾百萬本の木々が、その焼け死んだ頭を爆發地點から、その側に向けて、しかも求心圖を描いて倒れてゐるのである。その様は恰も、練兵場を一掃した毒瓦斯の如き突然的死の浪によつて列のまゝでその場に倒れてゐる兵團のそれにも較べるこゝが出來やう。

更にロシアの科學者の語るこゝろによるこゝ

「落下した隕星の各破片は恰も巨大なるピストンのやうな働きをしたに違ひない。」

隨つて隕星の下に壓縮された空氣は逃げ道を求めなければならなかつた。

かくて氣流はもの凄く外部に飛散したので半徑四十乃至五十キロの中にあるあらゆる樹木は大暴風中の齒楊子の如く吹き飛ばされたのである。恐らく斯くの如きは人類歴史に於ける最初の出來事であり且最後の大事變であつて、かのローマ時代に於けるベスピヤス山の大噴火や或は二三十年前のマルチニクのペレー山の大噴火の時でさへも、シベリヤの數百萬本の木々を倒しあの熱しきつた氣流が嵐となつて狂暴にも吹きつた有様は到底見るこゝが出來なかつたのである。

隕星落下の地點より更に遙かに遠ざかつた地方に於てもこの大慘劇の跡形は残されてゐる。即ち數百哩を離れたこの地點に最も近い村落に於ては今でも尙農民達は二十年前の七月の早朝に大空に巨大な閃光をみたこゝをありありこおほえてゐるのである。そして或者は、人を吹き倒したり、窓を破つたり、その他、板こか軽い品物を吹き飛ばした空氣の波動を思ひ出し得るのである。

約八百キロをへだたつて停車場に於てさへも土地の震動をつよく感じたのである。しかし、それを地震だと思つたらしい。

「隕星落下の正しい地點を、隕星投射によつてつくられた巨大なる熱の波や空氣の波の、疑ひのない跡形を見つけたクリク教授や、その同伴者達は

更に一步を進めて地中にはまり込んでゐる隕星の大きな破片の一つに達するやうに鑿岩機を下したが水の爲めに、それは不能に終つた。かく不能に終つた原因は單に其の地點が沼澤の多い地方であるばかりでなく、その大破裂穴が、その後降つた雪や雨の爲めに俺はれてゐるからである。

「クリク氏の考案によるご橋の土臺を沈める時に使用される機械に似た潜函ツンを用ひることによつてのみ、その下に横はつてゐるご信じられてゐる巨大な鑛物（隕星）に達し得、且つその一部を引上げるこゝが出来るとも出来ないのであるご。勿論、冬期、土地の凍つてゐる時ならば鑿岩機を下すこゝは可能かもしれない。然し、クリク氏自身その企てが成功するかごうかを疑つてゐるのである。

記者は更につゞけて

「隕星の小さな標本が発見され、そして今、それがモスコに齎らし歸られたのである。この標本は科學研究所で専門の大家によつて研究されるこゝになつてゐる。

この標本によるご、その隕星は石性のものから出来てゐるものよりも更に珍らしく且つ、より高價な鐵の變種であるこゝを語つてゐる。

シベリヤに於て発見されたこの隕星の價格はシチン教授によるご、その含んでゐる鐵分やプラチナのためにざつご三四億圓には達するごいふ。しかしこんな人里離れた、人の近づき難い荒涼たる地にある隕星を商買にして儲るかごうかは甚だ疑はしい。

ごにかく、ロシヤの科學的權威者達が次の夏に計畫してゐるごころの落下の地點の更に進んだ研究の目的は、存在してゐるかもしれない高價な鑛石を得るためではなく、世界歴史上に嘗て見ないこの大事變に關する更に一足を進めた科學的報告を得るためである。

しかし、この大事變は恐らく人類が地上より掃蕩される以前に、まだ何回か繰返される運命に置かれてゐるかもしれないが、來るべき夏に飛行隊を現場に派遣して空中より寫眞を取つて穴の正確な形や大きさや、或は落下した方向の測定をする計畫をなしてゐる。